

□対談／デザイン・イラスト

よもやま語り

良いものは
軽やかに。早川 良雄氏
灘本 唯人氏

△グラフィックデザイナー

△イラストレーター

司会／本誌編集長

小泉 美喜子

★早川先生の顔を拝見するだけで興奮する！

早川 僕がこの道に入ったのは大阪の市立工芸学校に入っちゃったからです。学校の先生が、そういうのがいいだろうと、まだ子供でしたからね。これも偶然のいたずらでしそうね。昭和5年ころのお話ですから。

灘本 僕は早川先生に憧れてこの世界に入ったんです。僕の世代は先輩達に憧れて、この世界に、という道がありましたね。絵心というものがつきはじめたのは23才くらいで、戦後溶接工やつたりしてましてね。焼跡やヤミ市派です。それで、近鉄などの早川先生のポスターを見て、こういう仕事をやりたいと思うようになつたわけです。

早川 ところで、僕が近鉄やめてCARON洋裁研究所の小さい部屋2坪くらいのを無料で提供されたの

が、事務所の発端なんですね。家賃も無料でしょう。それでカロンのファッショントリヨーのポスターなんかを、

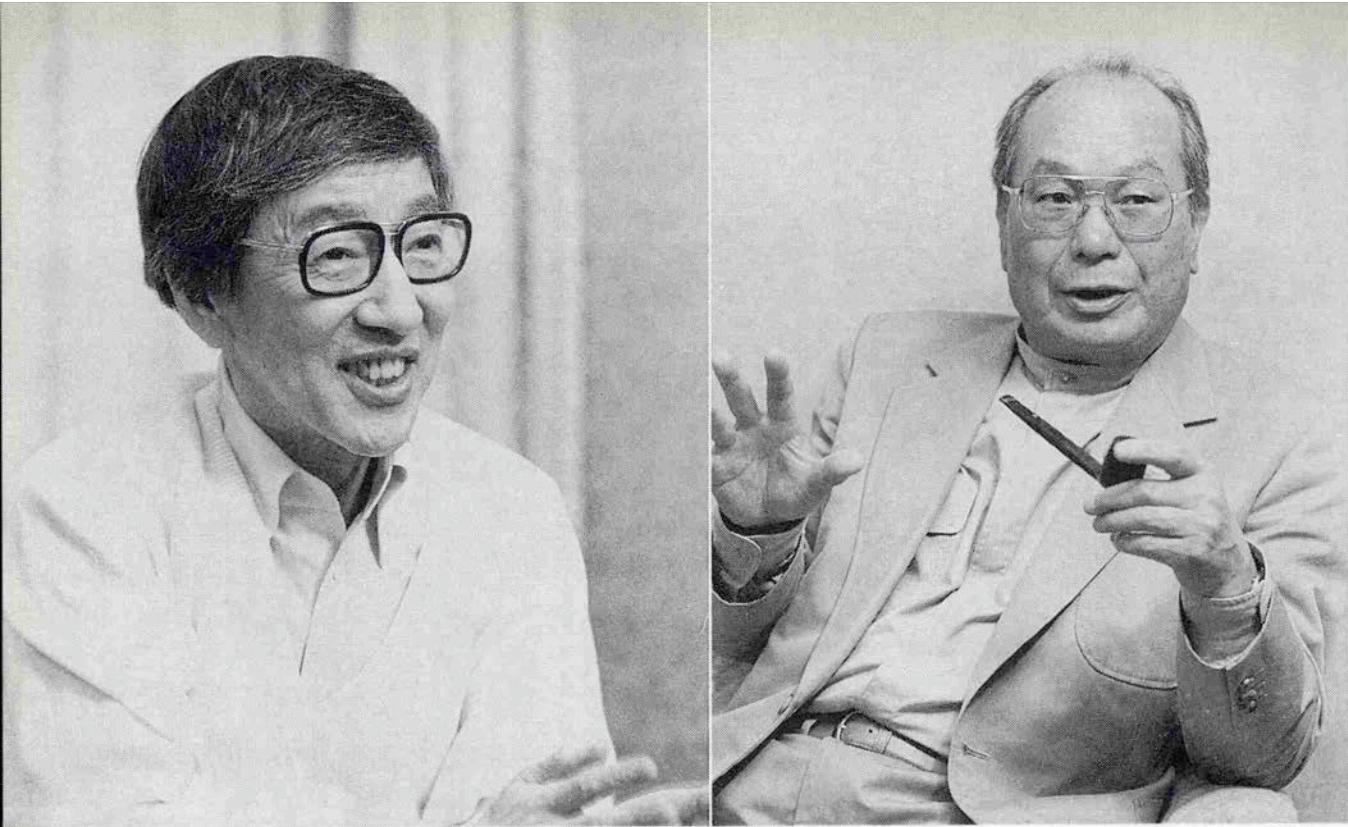
★7月号は「神戸とデザイン」がテーマ。そこで巻頭対談として昭和から平成にかけて第一線で活躍されている大阪出身のグラフィックデザイナー、早川良雄氏と神戸出身のイラストレーター、灘本唯人氏に、デザインに関する様々なお話を、うかがつた。

灘本 当時関西人も東京へという時代でした。早川先生もそういうお気持ちがあつたんですね。僕は山陽電車にいたんですが、ある日早川先生に呼びだされたんですけど

早川 (笑) 本当かなあ。

灘本 昭和32年頃だと思います。兵庫県デザイン展というのがありました。その審査に早川先生がいらっしゃるということでお応募した訳です。その作品が、先生のお目ガネにとまつて幸運にも先生との交流が始つた次第です。当時は顔を拝見するだけで興奮するんです。(笑)

今でもそういう気分になります。(笑)



「先生の顔を拝見するだけで興奮するんです。今でもそういう気分になります」と灑本唯人氏 「本当かなあ。今でもその気持ちをもっていってくれたらしいんだけどなあ」と早川良雄氏

ね。で、ちょっと話があるつてい
うんで舞い上つてしまつたままG
線へ飛んでいたら、先生が、君
と一緒に仕事をやりたいとおっし
やつたんですよ。とにかく早川先
生と仕事をするつていうのが僕の
中では名譽だつたんです。早速、
山陽電車に辞表を出して、あこが
れの早川事務所に入ったのです。
それがカロン洋裁の二階で場所は
一等地でしたが、エーというほど
汚ない…。(笑) ねずみが走つて
いた。(笑)
早川 でも、さつきいつたあの最
初の気持ちを今でももつていてく
れたらいいんだけどなあ。かわれ
ばかわるもんですよ。

灑本 (笑) でも早川先生の偉大
さというのは当時西の早川、東の
亀倉(雄策)と競い合っていましたよ。
そういう偉大なグラフィックデザイナー
の中にあるわけですね。その中で
先生のイラストレーションという
のは異才を誇っていたのです。そ
れまで僕はアカデミックな小磯先
生とかに影響されていましたが、
それが早川先生の作品に出会つて
から、自分の中で啓蒙されたとこ
ろがあります。先生は謙遜されて
おっしゃいますが、影響うけるサ
イドとしては大きいものがありま
す。だけどあのゆがんだ先生の絵
を好きになつた僕も悲劇といえは

悲劇ですね……。(笑)

早川 (笑)僕も本当にそう思いますよ。

灘本 でもね、ああいうタブローの世界というのは家元制度に通じるようなところがありますよね。僕はそれより一匹狼の方が性に合っていると思いデザインの世界に入ったのです。我々の仕事というのはいい仕事さえすればすぐ一線で活躍できるし、じめじめした序列がないのだけ、いさぎいい訳です。ところで今の若い人達ですが選択のメディアがありすぎてかえってむつかしいですね。

早川 ライバルが圧倒的に多い。我々の時代はもっと素朴でしたね。昔はもっとシンプルでしたよ。

★なぜ東京へ行くようになったのか?

早川 とにかく東京に拠点をつくろうと、無理しましたが、ムーランライトという真夜中の飛行機で、何年間か東京・大阪を往復しました。

灘本 でも、早川先生の夢と現実はギャップが大きすぎます。(笑)銀座一等地、はじめてエレベーターのついたビルで、経済的なバックも何もないのに。それでデスクだけあって椅子がない。向いの大日本印刷から椅子を借りた。(笑)仕事は何もない……。

早川 普通、名古屋なら名古屋、東京なら東京、ニューヨークならニューヨークにこういう仕事があるからオフィスをつくろうというわけですが。僕はとにかく拠点をつくろうと思つたわけです。敷金払つて家賃払つたらお金がなくなつてしまつた。(笑)

——それでどうなさつたんですか。

早川 それで彼が、苦労したと思うんですけど、デザインの仕事どころではなくて外交屋みたいになつていいろいろがんばつてくれたんです。

灘本 たまたま電通の方が、近鉄で早川先生と一緒に机を並べてやつておられたんですが、みるみかねて日本石油のボスターをと仕事を下さつたんです。それで僕は帰つて早川先生に「先生仕事を頂きました。先生御あい

さつに行つて下さい。」というと、会うのがイヤだとおつしやる。とにかくわがままです……。(笑)それが東京での第一作で、徐々に経済的にゆとりが出てきた。そうすると先生はみさかいく事務所へ人を入れるわけです。早川良雄事務所ということで、いろいろ人が来る、そうすると人情として断われない。勝手に入れちゃうんです。黒田征太郎とか白石和子とかどんどん入れた。それらの僕は番頭だったんです。

早川 5年間ほど番頭をやってくれて、ある日ちょっと話がりますといわれ、珍らしく喫茶店に行つたんです。そうすると『この5年間勤めましたが、先生にはホトホト愛想がつきはつきました。これからひとりでやります』と言われました。珍らしく喫茶店に行つたんです。す。そうすると『この5年間勤めましたが、先生にはホトホト愛想がつきはつきました。これからひとりでやります』と言われました。(笑)エーッと僕は驚いたんです。鈍感で気配を感じなかつたから。(笑)それでねびつくりしたんですけど、これは無理もないと。(笑)

灘本 ですが僕は早川先生とお知り合いになつていろいろな作品を創つていくプロセスを目のあたりにみてたでしょう。それが凄いんです。ポスターカラーで色を塗つた作品を突然雨が降つてきたっていうんでそれを外に出しちゃうんです。そしてひつこめて、ぞうきんでこそする、そうするときれいなムラができます。そういうことを平気でやつちやう、我々の常識では考えられない手法なんです。そういうのをかいまみると、欠落している部分というのはいっぱいあるんだけれども素晴らしいということことで帳消しになる。

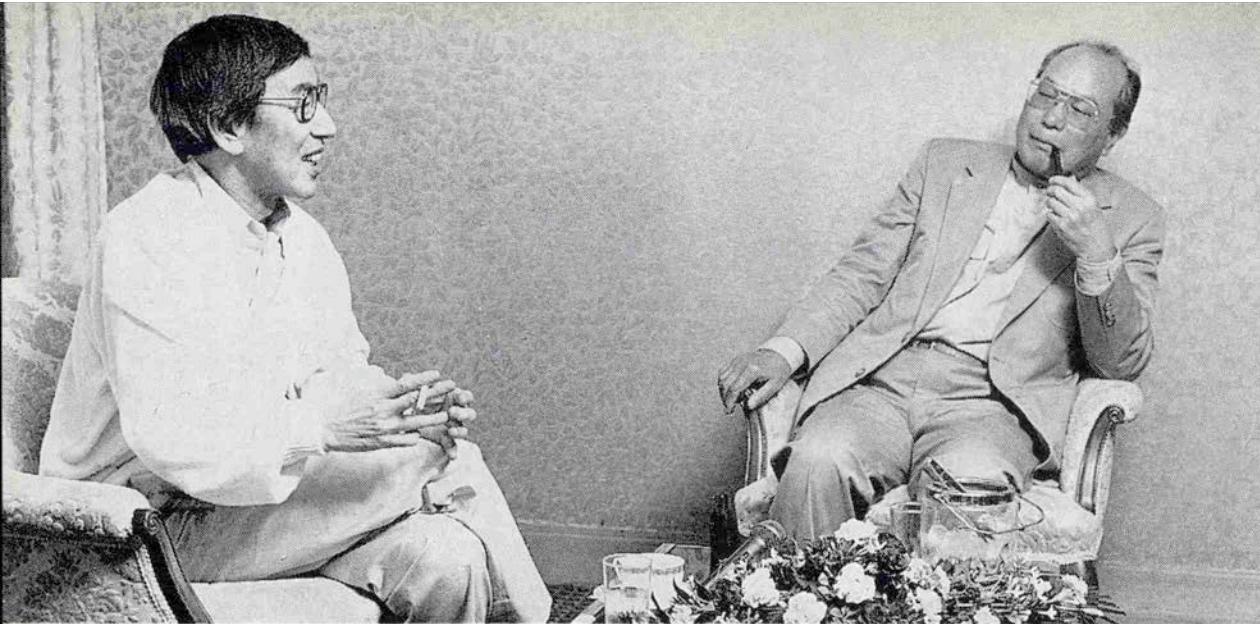
早川 そうすると、やはりプラスになったのかなあ。

灘本 全然なつていません。(笑)

早川 そうかなあ。(笑)

灘本 とにかくいろいろありましたけど、お金に関していえば、英國屋でスープのいいのを作つたり、飲み屋の請求。昭和35年当時で30万ですから、ひと財産です。——先生、それだけ遊んだり、飲んだりしたのは今でも身についていますでしょう。

早川 とんでもないです。当時の、飲み屋の請求30万と



東京・新橋第1ホテルで対談中の早川、灘本両氏

いうのは確かに大きなお金ですが、それは僕の遊び盛り、飲み盛りだったわけです。

灘本 でも先生は一人で行くのが嫌な人でしたね。誰かを連れていく。星はものすごく厳しい姿で仕事をしている。それがだんだん陽がかけてくると、「灘本君、ちよっとラジオつけて下さい」とおっしゃる。それで松尾和子の「誰よりも君を愛す」なんかきいていると気分は飲み屋です。(笑)そこから人格がわかるんです。(笑)それで、6時ごろになると「灘本君、今日の予定は?」僕らはあるって言えないと。で、「ございません」というと、「じゃ、飲み屋へ行こう」とくる。(笑)飲み屋へ行くと、「先生いらっしゃい」と歓迎してくれる。でしばらく先生の横に座わっていると、「君まだいたの」とこうくる。(笑)ドアを開ける瞬間が人に開けさせたいんですね。あとは用済みなわけです。(笑)だんだんわかつてきて、これは断わった方がいいと思うと、誰か他の人を連れていくわけです。(笑)

——でもいいデザイン修業になりましたね。

★関西人のデザインには遊び心がある。

——デザイナーにとって遊びことも必要でしょう。

灘本 遊びを含めた感性みたいなものをもつのは必要なんですねけれども。バランスを考えない遊びというのもあるでしょう。(笑)やはり天才ですから…。(笑)僕らの仕事というものは密室作業ですから、裏返しに誰かと接点を持ちたいというのが夜になると猛烈に出てくるんです。だから先生の場合はたまたまそれが飲み屋だったというわけです(笑)

早川 僕は不純な生き方をしましたが(笑)灘本君はピュアでしたから。僕は純粹遊興でしたね。

灘本 ただ飲み屋のママさんなんかに頼まれてコーススターとかマッチとかいうものに描いておられましたね。作品としてはとても小さいですが、それが素晴らしいといふ

です。だからだてに遊んでいるんじゃない、それが早川良雄の世界だと思いますね。先生の才能は凄いなあというのを飲みながら、そういう刺激を頂けたということです。そしてマッチならマッチの概念というのがある。それがそんなのをおかまいなしに、イラストレーションが裏側まで続いている。小さな作業の中でも光るものを見つけることがありますか。

——マッチが光のも大きな仕事をするのも同じだと思います。その辺が関東と関西の違いだと思いますね。先生が今東京にいらして東京の人の方法論と関西人のそれが違うことがありますか。

灘本 東京の人は真面目ですね。東京のグラフィック

灘本 東京の人からみて早川さんはあれだけ遊んでいてどうやつてあれだけのボリューム、質のよいものを創れるのかというクエスチョンというのがあると思います。

——デザインにも遊び心があるというのには環境によって違うと思いますが、東京にいらして何年ですか。

早川 家族をこちらによんで20年、事務所を作って30年になりますね。

灘本 同じ道づれですね。(笑) 僕は東京は戦いの場、いい場ではないと思いますね。ですからある年齢になると関西に帰りたいなあというのがありますね。早川先生のように過去の実績をおもちなのと、僕はちがう、まだだと仕事をしなくちゃいけない。好きな様に描いて



早川良雄氏経歴
1917 大阪生
1936 大阪市立工芸学校图案科卒
1952 三越、近鉄百貨店宣伝部などを経て、フリーランス
1954 「大阪府芸術賞」
1955 第1回「毎日産業デザイン賞」
1978 第13回造本装帧コンクール「通産大臣賞」
1981 第12回「講談社出版文化賞」
1982 「紫綬褒章」
1988 「勲四等旭日小綬章」

人達をみていると早川先生と流儀みたいのが全然違うと思いません。関西風土で育った人というのは遊びの美学

★★女の心情・表情を軽みの良さで描く

早川 昔は、仕事の時間が終わってバーなんかで飲んでいたも、東京の仲間は仕事の話ばかりっていうことがありますね。ところが、大阪的風土、関西的風土といつてもいいですが、仕事の話なんかはしない。僕達の世界だけではなく一般的にもあるんじやないでしょうか。それを東京のタイプとすれば、あまり粹じやないです。ところが、東京側からみれば、また別のいい方をするでしょう。僕は四六時中仕事がつきまとっているというのは好きではないですね。

灘本 僕は早川先生のところをやめて、出版の作業に入りましたが、いつどき出版関係で連載20数本をもつたときの戦いというのは凄しかったですね。どの作家の絵を描いているのかわからなくなつた。その間にカレンダーの仕事なんかが入ってくる。そういう修羅場もあった。それで21本を15本くらいにして、徐々にへらして今のレギュラーの仕事が4本か5本くらいです。そのベースでいくといいます。早川先生のように大きな仕事というのがない。先生は、近鉄のポスターとか、イン

灘本 先生は美女をあまり描かなかつたですね。

早川 本当の絵はその人物の人格というか性格というか内的な精神性も描かないといけない。ところが、「表情」というものは絵画としては二の次三の次なもので。僕は中身より、もちろん中身は表情でますが、表情の美しさ、私好みのを追求してきましたね。だから本当の意味の造形をとらえるよりも、悲しみとか、喜びとか、そういう女的情绪を表現することが好きなんでしょうね。



1960年頃早川事務所で

竹久夢二とか、そこまでいくと重くなりますが、軽みの良さというんでしようか、そういうものが感じられますね。演歌が好きなように。早川先生の場合はそこまですが。

灘本

日本人でやたらセンチメンタルで竹久夢二とか、どこの背中に淋しさをひきずつているようなものを好みますね。演歌が好きなように。早川先生の場合はそこま

でいかない。むしろ造形美でしょう。音楽に例えれば何

でしようかね。ヴィヴィアルディとか。以前五木寛之さんとサンTVにてたときに、竹久夢二、岩田専太郎、灘本唯人というので企画出演したんです。第三者がみれば何か共通しているところがあるんじゃないでしょうかね。竹久夢二も岩田専太郎なんかも自分ではよく知っているつもりなのに、そういうテーマででたんですね。

早川 フォルムに共通項がありましたね。

灘本 はじめは早川先生に似ていると攻撃された。自分にまとわりついたその早川先生を離れるためには、誰か目標にしなくてはならない。だからといって夢二を目標にしてはいませんよ。僕の場合は不純動機で、「灘本さんなんで女の絵を描くんですか」と言われて「金もうけになるで。それを描いてれば一生食える」と。(笑)一番需要が多いのは女の絵だと。それで最近少しあきてきたんですね。男を描いたり、時代ものを描いたりして、自分の中で可能性をためしているんですが。

★良いものは軽やかに

——今、軽みの文学、絵、デザインも流行しているようですが。

早川 その軽みも軽みすぎで。ニーチェの言葉に“良いものはすべて軽い”というのがあるそうです。先年亡くなられた美術評論家の今泉篤男さんが、戦後初めて外遊して、方々の美術館を見てきて、書いた本にこのニーチェと同じような言葉があつたのを鮮やかに憶えていました。ルーブルとか全部まわったが、本当の傑作というものは画面の表情が涼やかである。そういうのは本当の軽さですね。ところが、僕の場合は軽薄だと。(笑)ニーチェとちょっと違うんですね。(笑)

灘本 今、僕の顔をみて、そうおっしゃつた。(笑)

それに、関西系の人は色使いが鮮やかでいいと思います。東京の人々に比べて。

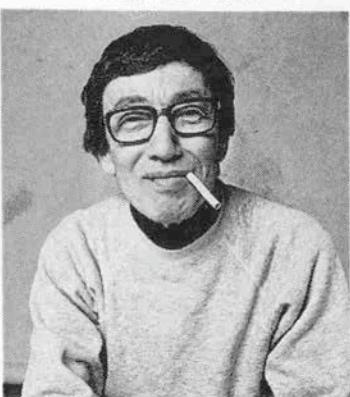
早川 風土の問題ですね。

間的ジャンルができるかもしれませんね。灘本 どこまでイラストレーションとしていいのか、どうも見直さないといけないみたい。

間的ジャンルができるかもしれませんね。

間的ジャンルができるかもしれませんね。

1985年頃の酒井唯人氏



間的ジャンルができるかもしれませんね。
灘本 どこまでイラストレーションとしてみてしまうか
ということが問題だと思います。

これはもう、絵画としてはルール違反もいいところ、めちゃくちやになりますね。ところが、イラストレーションとして見ると、その方がずっと効果的でインパクトも強い…ということがあり得るのです。

画面の下半分が重厚な写実で、上半分がキャンバスそのままの真白…、この極端なコントラスト、破調が、デザイン感覚で見たときのイラストレーションの魅力につながるのですね。

また、りんごと果物皿だけを充分に描きこんで、あと
はすべて淡彩の線だけで処理してしまうとか…。こういう
う、いわば既成の造型文法を無視して自由自在に振舞え
るところが魅力なんですが、近頃は、タブローのなかに
も進んでこの方法を意識的にとりこんでいるのが多いで
すね。やはりここでもボーダレス現象が起こっていると
みていいでしょう。

僕は、印象派の画家たちが浮世絵の魅力にとりつかれたのがよく分かります。この場合は主に、その大胆な構図にびっくりしたらしいのですが、やはり先ほど言つた、西欧絵画には無かつた極端な“省略”的効果に影響されたと思うのです。つまり、浮世絵はすごくイラストライティブな会なんですね。

灑本 われわれは現代の浮世絵師というところでしようかね。

(新橋第1ホテルにて)

ルにて

灘本 最近、若いイラストレーターの中に抽象的な方向に走る傾向がみられ難解になりつつありますが、我々は明解なものを描いて支持を得てきた。それが今は難解。横尾忠則もデザインを放棄し、アートの方が上等だとう。それはアメリカでもそうらしいですが。

早川 デザインという仕事は自分を100パーセント出せない仕事です。だからなんとかして100パーセント出したい、簡単にいえばそうです。

灘本 そうすると仕方なく、アーティストになればいいか、イラストレーターを棄てきれずにアーティスティックなものを追求したらいいのか、わからない。これからゆくえというのが非常に興味深いところですが……。

早川 ボーダレスの段階、両棲動物みたいな状態ですね。過渡期としてそういうのがあってもいいじゃないか、中

神戸の
デザイン特集
(2)

□インタビュー
神戸のデザインを考える

シアター デザイン劇場を 神戸のド真ん中に！

神戸デザイナーズ協会理事長
原 康夫 氏に聞く



——神戸のデザイナーズ協会はいつ頃出来たんですか？

神戸のデザイナーズ協会としての歴史は10年ですけれど、神戸は結構デザインの歴史は古いであります。昭和27年ぐらいからでしょうね。戦前は神戸の大丸の宣伝部にいらっしゃった西宮の今竹七郎さんとか、神戸博のボスターで活躍された中村真さんとかが神戸のデザインのルーツです。神戸デザイナーズ協会は、インテリア・グラフィック等あらゆる分野のメンバーが入っていますが、大体グラフィックですね。戦前はデザイン同好会みたいなのがあっても、ほとんど活動していなくて戦後になって団体らしきものができました。今の星電社の会長の長谷さんが神戸新聞社時代に、もう少し大きくなっていこうじゃないかということになって、「神戸宣伝美術協会」ができて、「兵庫県宣伝美術協会」ができたのです。今のところデザイン関係がグラフィックだけでは、やっていけないので作家の集団というか、「職能団体」としてやっています。いま、三宮界隈を走っている、シティループバスなどもプロジェクトを組んでやりました。車体が独特だから、カナダのボディメーカー会社に頼んだりして大変でしたよ。作品をオリジナルで発表するのもいいけれど、

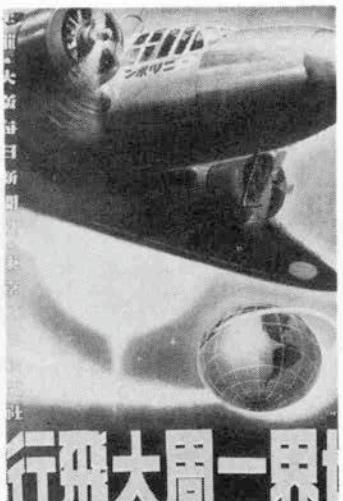
今は環境デザインとか広い意味での仕事が中心です。
4月から県が工業試験場を産業デザインセンターにして県の役員のデザイナーだけではワンバターンなので、うちが手伝っています。多少ボランティアみたいですが。9月の初旬に県と合同でシンポジウムを開催して、物産のデザインのいいものをを集めて展示会をしようと思う。行政と協力しながらやつていいこうと思っていて。役所としてではなく、兵庫県産業デザイン振興協会をどういうふうにしたらいいか模索しているんです。市町村の経済団体を第3セクターとして協力してもらうとデザイナーはやりやすいのですが。グラフィック、インテリア、店舗、工業デザインの4つが頭の冴えた人を必要としていて、両方の橋渡しばかりしています。大事な点は職能団体としてやつていかないダメということです。

——大成功のシティループバスのように行政と一緒にデザインするというのは神戸らしいですね。
今、神戸芸術工科大学に期待しています。アメリカの大学をまわって気付いたことは、外部から情報を集めて生徒に還元しているんです。日本はそういう点が遅れていますね。芸工大はいろいろ工夫しています。ここがデザイ

ンの発信基地となつてほしい。工房をつくって活性化をはかりたい。市長にもお願いしているのですが、お金がかからなくてもアメリカの大手のように、若い優秀な教授が必要です。だから、神戸もお金がかかるでも、外国の優秀なデザイナーを教授に呼ぶべきです。

通産省も、運動が全国的に広がっているけど、兵庫県はまだ遅れています。貝原さんが「もっとデザインに力をこめてやつと力を入れ始めたんですよ。

それから工房が必要です。発表の場がないんです。アーバルも含めて、市と県が器をつくらないといけない。イベントでちよこっとやるのはダメです。実験工房として、新しい情報の集まるところがほしい。スペースとしては、少なくとも100坪で3~4階建てのものがいります。経済面では、企業からの援助を受けて……。兵庫デザインセンターをつくる時、15~20億円の基金を集めてやらないといけないと言つたんです。



1939年 今竹七郎作品

*'86に開かれた県立近代美術館のパンフレット

——場所としてはどんなところを希望されていますか。
ロンドンにある国営のデザインセンターは、賑やかなところにありますよ。ピカデリー・サーカスの人の流れの多いところで観光客も入っていくし、一と目でデザインのことが分かる。神戸もセンター・プラザとか町の中心のエキサイティングなところがいいですね。

——神戸ブランド研究会なんかをつくってみては……。
鞆でも組合のブランドをつくれと言つていいんです。

産業を盛んにするには個人ではできないし、アクセサリーなども見えなかつたら駄目になる。グローバルに物を見る事が必要です。役所と企業と一緒にやっていくという第三セクター方式をとるべきです。神戸は若い人が北野等に来たりするから環境に合わせて見せる場所をつくる事が必要です。今、問題なのは神戸のアーチストが使える美術館が人の集まる街中に無いことです。デザインはエンターテイメントですからね。ループバスも団体だからできたのです。今年から産業デザインセンターができたそこを大きくしていこうと思っています。建築関係にも、もっとデザイン感覚がほしいのです。面白味のない建物になつてしましますから。総合的に縦割りではなく、道一つくるにも、デザイン・建築などの横のつながりをしつかりつくついていきたい。経済局もすべて、一緒にやつていかないと神戸市全体のポリシーがなくなる。神戸市に「デザイン課がない」というのはおかしい。大阪市にはありますよ。企業だけでなく行政のカバーもいりますから。三宮のド真ん中に「神戸デザイン劇場」みたいのはどうでしょう。とにかく器が必要です。ループバスが神戸の町を走つたのですから、この提案をぜひついていきたいですね。若者が面白がつてどんどん見にきて買えるような。ファッションショーも、デザイナーの作品も、面白いグッズもあるような。ここが神戸だといふようなエンターテイメントのあるモダンなデザイン実験工房がせつたい必要です。

担当／松森

神戸のデザインを考える

デザイナーのアイデンティティ が反映するスペースの提供を

□座談会出席者（敬称略・順不同）

上田 謙三男

（㈱コウベデザインセンター）

藤田 喬彦

（藤田デザイン事務所
日本インダストリアルデザイナー協会会員）

杉本勇和次

（㈱コトヅタ・アーディメント）

引地 邦夫

（シップス・インコーポレーション
取締役・プランニングディレクター）

W・ダイヤ

（シャーリングオフィス
ファッショントリニティ）

★積極的にアピールする海外デザイナー

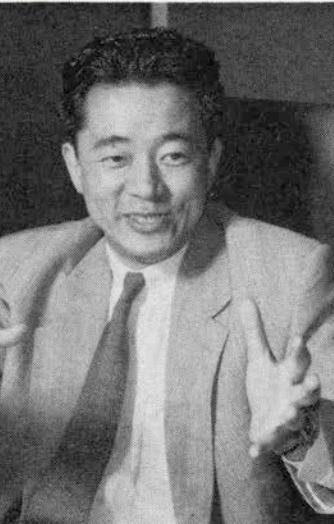
去る4月21日、神戸デザイナーズ協会のパックアップで兵庫県産業デザイン振興協会が発足。神戸においてもデザイン界での新しい動きが出て来ています。そこで今回の中座談会は、デザインの各分野の第一線級で活躍されておられる方々にお集まりいただき、デザイン界の最近の動きや今後への提案などを伺った。

上田 私の場合、グラフィックデザインと言いましても、パッケージが主体なんです。例えば、ビールのラベルや煙草の箱なんかを扱っているんですが、やはり、スパンサーやおつしやる意向をくみとつてデザインしなければなりませんから、全てに制約がでできます。そこで、神戸デザイナーズ協会以外に私が所属している日本パッケージ協会では年に一度、自由ボックス展という、とにかくデザイナーの思いのままの作品を発表できる展示会を東京と大阪で開催していく中で、日頃の憂さをここで晴らすといった感じで、私の周囲のデザイナー達も参加しています。

藤田 インテリアデザイン（以下ID）の立場でも、デザインの制約はきつくて、デザイナーがメーカーの意向に、いかに従うかということになっています。どちらかと言うと、IDのデザイナーは最近、デザインをしていないというのが現状なんですね。要するに、コンセプトメイキングやライフスタイルの研究等をするのが、即ちデザインになっていまして、線を引いたり、絵を描いたりといった作業は機械にまかせているんです。企業においても、デザイン室という名称が無くなってきて、ライフスタイル研究室とか、総合デザインセンターなどの名称になってしまい、デザイン部門というイメージは減り



上田 謙三男さん



杉本 勇和次さん



引地 邦夫さん



シャーリン・W・ダイヤさん



藤田 薫彦さん

つつあります。現実のセクションとして「デザイン」という言葉 자체が無くなつてきているんですね。そんな中で、上田さんもおっしゃった様に、憂さ晴らしもやっていまして、例えば、神戸以外に私共が所属している日本インダストリアルデザイナーズ協会では、発想の自由な展覧会をしていたり、一部のメーカー側の展覧会ではデザインの枠を越えた、さらに自由な発想ができるることで作家としての息抜きが、かるうじて出来ています。

ダイヤ パッケージのお話が出ましたが、私もその方面に携わっているんです。ただ、私の場合はコンセプトプロランニングの時点から制約を受けないで、自分のやりたい事を表現しているんです。いわば、自分達で制作して、その発表の場を探して展開していくという方法で…。ですから、やはり周囲からもいろいろと言われたりしますね。仕事の姿勢が大陸的なので(笑)。

ダイヤ 私の仕事のベースはファッショニンで、ショッピングのプロデュースやコーディネイト、特に、マーチャンダイジングを主に手掛けているんですが、よく思いますのはアートの分野で、なぜデザイナー達はアイデンティティをどんどん外へ出していかないのかということです。先日、ニューヨークで2回目の「インターナショナル・コンテンポラリー・ファニチャ―・フェア」を見てまいりましたが、デザイナー達の表現の仕方がとても上手だと思いましたね。作品をつくって、自分でPRしているという点で、日本のデザイナーに、そんな傾向はないですかね。

上田 そうですね。海外の美術学校の学生なんかは、自分の仕事の成果を自分でPRしないと会社へ入れないんですね。教育の仕方が日本とは違う。日本では、ところん方式で学生が企業に入っていくでしょ。だから、実社会に出ても自分から積極的に売りこんだりせず、言われたことだけをこなす体制になってしまっています。

ダイヤ そう、受け身の姿勢なんですよ。

一方で、海外のデザイナーの作品は、それだけを見て

も刺激になりますし、おもしろいことに建築物であろうと、インテリアであろうと、プロダクトまで全て手掛けたんですよ。その辺が、日本のデザイナーとアーチストとの違いで、インテリアデザイナーでも家具をつくるし、プロダクトデザイナーかと思えば、意外と建築家だけたりする。

藤田 ヨーロッパでは、殆んど建築家がIDをしていましたよね。

ダイヤ そう、そう。建築家が照明器具をつくったりするの。

★神戸の土壤を活かした活動ができれば

ダイヤ まず、デザイナーが作品を発表する場合が、日本には少ないのが残念ですね。

上田 メイドイン神戸のデザインを考えるなら、作品を発表できるスペースの提供から手掛けないといけないと思いますね。

ダイヤ 今、ギャラリーと言うと絵画が中心で、IDやパッケージなどの立体物を扱うギャラリーがないですね。ニューヨークにはたくさんありますよ。

藤田 ただ、神戸の場合は、デザインをまだ何年も前の商業美術というニュアンスのとらえ方でしか見てないと思ふんです。

引地 全くそうですね。神戸ではデザイン・インフラも

そうですが、デザインにおける商業的なインフラさえも確立されていないですよ。だから、神戸から情報が出て

いっても、最終的に加工されるのは東京なんです。

上田 大阪や東京の仕事が殆んど中心ですが、それらの

スポーツバーは神戸だつたりする(笑)。つまり、こうい

う流れがあるんですね。だから、関東のデザインと関西のデザインの違いなんて何もない。でも、ヨーロッパと比較すると少し違うがあると思います。日本人の癖が

わかりますね。

杉本 バタクさいという。

上田 そう、そう。少なくとも日本の中では昔はあったみたいですね。民芸品等の類のもので、何となく地方性が出ていたりして。でも、今はいでしょ。国際化していく中でのデザインを考えてみても、かなり希薄になつてきていると思います。

杉本 その街、風土性みたいなものがね。

上田さんと同じように我々の業界でも、東京や大阪の業社が工事を受注し、それを神戸へ発注するという流れがあります。神戸の業社はおいしい所を東京や大阪にさらわれて、結局 お手伝いをしているという感じに思えて、私自身はこの流れに不満があるんですね。そこで何とか、それを食い止めることはできないかと思うんです。そのためには、やはり、神戸のアイデンティティを確立していないといけないんじやないかと。で、私が考えているのは、高架下の見直しなんです。あの通りはお店の看板に、右からカタカナで字が書いてあつたり、どこそこカンパニードとか、中国語で書いてあつたりと独特の雰囲気がありますね。あれは、東南アジアに西洋文化が入ってきた頃のコロニアルの名残りで、まさしく神戸のオリジナルじゃないかと思うんです。おそらく、東京にその風情は残っていないでしょうし。外来の文化を吸収することで発展してきた神戸の文化を、今、改めて見直してもいいと思いますけど。

上田 外的要因から神戸は、いいイメージをもたれていますよね。だから、神戸でデザインのイニシアチブがとれるはずです。何かが神戸から発信されたらね。

杉本 それは、宮崎前市長のおかげだとも思うんです。

日本の中で神戸の位置づけ、イメージがあがりましたよ。

ある雑誌に、複数の女性誌に掲載された店舗の紹介ページがあつて、その中に10~15程の店舗が載っているんですけど、2、3件は必ず神戸の店が入っています。大阪や京都の店がない時もあるのに。やはり、日本の情報リースが神戸を注目し、それだけプロジェクトがあつて、

今後、伸びていいだろうと予想されているんですね。だからこそ神戸は、やりがいがあると思ってるんですよ。
引地 そう思いますね。私は、ずっと神戸に住んでいます。ですが、仕事場は大阪だったんです。神戸に来て一年ぐらいになりますが、これから神戸には、新空港が計画されたり、他にもいろんなシステムが揃つてくると、何かおもしろい事がここで出来るんじゃないかと思つて期待しているんですよ。

ダイヤ 私も神戸の街がとても好きなんんですけど、現実では、まだ仕事が少ないですからね。しかし、広告代理店、特に、グラフィック関係においては日本の獨得のシステムが出来てますね。

上田 代理店がデザインのプランニングを細分化していくという点で。例えば、ディレクターの上にまだチーフディレクターがいたりして。昔のデザイナーは、全て自分でやっていたし、企業コンサルタントまでやっていたりしましたよ。当時は、地方だったからそれが出来たのかもしれません、今は代理店システムがある上に、日本流の縦割り社会が加わるから仕事をする範囲が狭くなっています。

ダイヤ 特に、プランニングやグラフィック関係では、デザイナー達のアピールする場所がなくなつてくるわけですね。

引地 それに、例えば、音楽や本なら著作権があつて、いわゆるロイヤルティがあるかもしれません、デザインの場合は情報が育むものですから表層機能が問題になります。やはり、情報化社会の中では表層機能の方が優位になりますし、それに日本の場合は、特に、それを重視しますからデザインの著作権なんてとんでもない話になる。要は、物質の機能性だけしか判断されないんですよ。これからに期待したいんですけど……。

杉本 外国の話ですけど、家具のデザインの場合、例えば「アッシャー」というメーカーなら商品の後にデザイナーの顔写真が貼りつけてあるんですね。と言うことは

「アッシャー」は、あくまでも、製作販売会社であつて、デザインに関しては、デザインオフィス、或いはデザイナーのロイヤルティを認め、確立しているんですね。逆に、日本ではデザインとは単なる味つけであつて、中身の方しか重視しない。コンピューターで言うなら、チップの方です。デザインは、最終的に加わるものだというジレンマに陥っているんでしょうね。徐々に、考え方も変わつてきているようですから。

★プレゼンテーションが強い人ほど神戸から出て行く

ダイヤ 日本のデザイナーは、仕事をたくさん受けて作業だけで終わっています。海外のデザイナーは、勿論、受注した仕事をするけど、それをしながら自分の好きなものをつくってそれを発表する場所を一生懸命探すんですよ。別の形でアイデンティティを産みだし、売りこんでいる。そして余裕をもつて仕事をしている人が多いですね。

杉本 ライフスタイルも全然違いますしね。

ダイヤ でも、売り込み方が違う。日本には、ハングリ一精神がないのかしら。

杉本 日本は、もともとハングリーだからありますよ(笑)。

上田 仕事をたくさん抱えこむぐらいだから、ハングリ一ですよ(笑)。

一同 (笑)。

引地 日本の場合は、代理店が仕事をもつてくるから、何となくそれを継続してしまつて仕事に追われ、ぬかるみにはまつてしまふ。

上田 とにかくデザイン料が安いから。

ダイヤ あと、日本のデザイナーはプレゼンテーションがうまくない。それと、フットワークも。

藤田 神戸で仕事をはじめて、シャーリングのおっしゃることがリアルにわかりましたね。神戸では、デザイナーにクラフトマン意識があつて、自分から能動的にクライ

アントに売りこんでいく雰囲気があまり感じられません。

ダイヤ そこで、海外デザイナーの積極さと、彼らのクリエイティブさを見れば刺激になると思うんですよ。

杉本 その刺激は、いいと思いますよ。刺激を受けないと、ぬるま湯の中で自給自足のままでは大きくなれません。

藤田 神戸は良くも悪くも、みんな仲間意識が強い。でも、そのお陰で飯が食えるという現実があります。

ダイヤ そうなんですよね。

引地 プレゼンテーションが強いデザイナーほど、東京や大阪に出て行ってしまいますよ。神戸では、ロイヤルティみたいなものが確立できないと考えて、実績をつくるために出ていくんですね。

藤田 私も神戸が好きですし、今は東京であろうと、大阪であろうと飛行機や新幹線、ファクシミリーを使えばリアルタイムで情報交換できるでしょ。その中で「これが神戸だ」と言えるものをつくるためにも、もっと発表する場所がほしいですね。

引地 おっしゃるように、情報化社会の中で作業としてはできますけど、商売の話となると、結局「FACE TO FACE」なんですよね。デザインは情報産業といえども、意思決定となるとクライアントとの距離が重要なになります。

上田 つまり、ハード面だけでは解決しない。お互いが思っているニュアンスが伝わらないと、なかなか話が前へ進まない。信頼関係の上で成り立っているんですけどね。企業が新製品を押し出す場合、特に直接会わないと熱意が伝わらないと考えるんです。

★神戸デザイナーズ協会のパワフルな発表の場づくりを

上田 神戸のデザイン業界に必要なのは、まず、それをとりまく環境の整備ですね。

杉本 それと、もととデザイナー自身がキャラクターを

もって、いかにプレゼンテーションしていくか。

上田 シャーリングのお話にもありましたが、海外のデザイナーが自分でPRしているように、「ここに優秀なデザイナーがいるんだぞ」ということを我々自身が訴えていかなければいけませんね。

杉本 それと、神戸デザイナーズ協会も、もっと会員を増やして活発に活動していきたいですね。ここで見直さないと。

藤田 しかし、縦割り業界の中で、横つなぎりを広げるためにもネットワークを広げることが先決ですよ。

ダイヤ そう、もっとグローバルに。

杉本 だから、協会として積極的にアピールし、プレゼンテーションをしていてアイデンティティを確立すれば、もっと活発になるんじゃないかな。神戸の人は、結構、自己顕示欲が強いはずだと思うんですけどね。

藤田 でも、毎回理事会で「今年はデザイナーズ協会の展覧会をしよう」と言つて、もう10年近くになりますからね(笑)。新しい展示場などでやりたいですね。

ダイヤ ここで、テーマをつくってオリジナルなものを作協会が発表してみてはいかがですか。

杉本 会員はクリエイターばかりですから、ディレクターも必要ですね。

上田 考えてみると、デザイナーの団体とファッショングループ等の異業種とのつながりが、今はないなあ。

杉本 一度、その辺から掘りおこしてはどうですか。

引地 とにかく、理念ではなくて、やはり、ビジョンですよ。そして発表の場づくりですね。

杉本 それに加えて、パワフルに活動したいですね。(レストランブランドウブランにて収録)

田崎真珠㈱

取締役社長 田崎 棲作
神戸市中央区港島中町 6-3-2
TEL (078) 302-3321

オールスタイル株式会社

取締役会長 川上 勉
神戸市中央区港島中町 6-5-1
TEL (078) 303-3311



□神戸を愛する人々へ贈る
メッセージ



紅茶の時間

稻田 勝己

写真と文
△FDB代表△

霧雨の窓に、遠くの山が緑豊かに。さきようの六甲は、山水画のような風景に、低く雲が流れゆく。新しい生命を受けたように、あじさいが仲よく、小さな花をよせあって咲いている。

雨のしづくは、丁度、真珠のように輝いている。

ほっとひと息、お茶を飲む時。
気に入ったティーをカップに、ライムを入れて。
時間を忘れて聞こえてくる自然の音に、耳をすませる。
時々は、静かな街並みがいい。

諫訪山、そして有馬街道。

山すそに川が流れ、昔の景色が生きている。そして、そこにある。

天王山温泉や平野温泉。

神戸に住んでいても、まだ訪れた事のない人もおおいだろう。

この近くの楠谷には、最近、水の科学博物館が出来ている。

今、観光地になつた街は、なかなか生活環境が難しくなつてきてている。
老朽化した家屋は昔の建物で、なかなか思うようにフレッシュ出来ない。しかし、経済性や、住む人、訪れる。

市内にも、15分たらず。

誰でも、こんな街にゆつたりとした居住空間を持ちながら住みたい。

最近、平野交差点山側で、低層階の建物を推進した。

この地域は、なかなか開発が難しいようである。

約2年、何度も話し合い、考え、オーナーの方の理解で、経済コストよりも、街並みを重視した。こんな街づくりが、ひとつひとつ草の根から平野を変えてみたい、という願いからスタートした。

誰でも、こんな街にゆつたりとした居住空間を持ちながら住みたい。



LES COLLAN
DEPUIS 11

る人、そしてそこに住んでみたいと言う意識によつては、大きく流れが変わることと思っている。

ところが美しい建物が出来たとたん、今までの取り決めで、鉄骨の軍艦色のアーケードがまた取付けられた。

どこの地域でも、なんとか再開発をして欲しい、整備して欲しいと言うかも知れないが、この地域の場合は、今のアーケードが、何か新しいものを探しても、セキ止めているのかも知れないと思った。

何でも反対。でも、時には賛成もいい。皆んな賛成でも、ひとり反対なら、その意見もよく耳を傾ける事が必要だろう。しかし、気づいた時は遅いかも知れない。

朝の新神戸駅でカード電話をかける。5台の内2台、ひどい時には、3台故障。何度もクレームを言つても、分かりましただけで、何も分かっていないようである。神戸の表玄関しかり、こんな状態は、全国の人にも、ごめんなさいである。

朝の一杯の珈琲。

そして10時のTEA TIME。

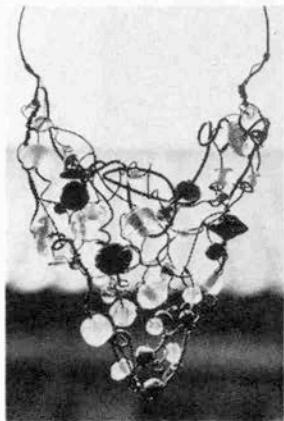
毎日同じシートに、いつもの時間が過ぎ、こよなくこの店の、この席の、この風景が好きになれる、神戸の街であつて欲しい。

神戸を訪れ、遠いふる里に帰り、またお茶を飲み、旅の話に花が咲く頃、また訪れてみたい街、住んでみたい街、こんな街になんとかなって欲しい。

■ いなだかつみ

(F・D・B代表者、プロデューサー)一九五〇年生れ。大阪市立第一工芸専門学校卒業。EXPO'70京都駅前再開発、その他、商業施設プランを手がけ、79年にFFICEを設立。

KAKINUMA GALLERY



露
山口三絵子・作
(ガラスクラフト) 川西南公民館にて
教室主宰
奈良あーとさんん・
宮崎にて年1回個展
開催

露や時計草のように、つるのからまる植物が好きで、でたらめな形や不確かなものに引かれます。

このネックレスは、つるが自由に伸びる中に、露のような水のようなガラスをからめました。こもれ陽や夕暮れの紫、海に足をつけた時や色々な時を止めて、心の奥の記憶を形にしたものです。

フッと懐しさを感じる方は、きっと同じ“時”を持っているのだと思います。
(柿沼産婦人科に展示)
(7/1~7/31)

芦屋 柿沼産婦人科

★健保適用 産婦人科・内科(女性専科)



阪神芦屋駅北へ1分・芦屋警察署東隣り

☎ (0797) 31-1234 (FAX兼用)

当GALLERYに掲載ご希望の方は月刊神戸っ子まで御連絡下さい。

SAKAEMACHI JAZZ STREET

★ピュッフェコンサート
チャリティ留学生と共に

森 哲也 ブルースを詩う

★★★★★★★★★★★★★★★★★★

'90 7月7日(土) ★★★

□神戸栄町4丁目 ★★★
和田興産ビル2F ★

★栄町ホール

☎ 078(361) 1100

★第1部／午後2~4時 70名

★第2部／午時5~7時 70名

いずれも会費(税サ消含)

¥ 10,000

★第3部／午後8~10時

於 Day by Day ¥ 5,000

ゲストシンガー／緑 ゆみ子

バック演奏／中野輝雄クアルテット

司会／松島 武雄

□主催／森哲也を励ます会 □後援／月刊神戸っ子

□お問合せ／Day by Day ☎ 392-4173

□協力 和田興産株式会社

神戸市中央区栄町通4丁目2ノ13 ☎ 078(361)1100(代)

神戸文学賞作品募集

本誌は昭和51年に創刊15周年記念として神戸文学賞・神戸女流文学賞を創設いたしました。これまで左記の通りに各賞の受賞作が決定しておりますが、第11回の募集より、さらに質の向上をはかるため「神戸文学賞」の名称に統一、受賞作を一作品として、現在、広く作品を募集いたしております。

○第一回神戸文学賞「島之内ブルース」（田嶋新二尼崎市）同女流文学賞「ベットの背景」（小倉弘子大阪市）
○第二回神戸文学賞「捨てた」（鬼野忠昭大阪府柏原市）「生活」（吉峰正人神戸市）

○この回の神戸女流文学賞は該当なしして、神戸文学賞を「作が受賞」

○第三回神戸文学賞「自由と正義の水たまり」（蒼龍一奈良市）同女流文学賞「影の棲む」（大原由紀子高知市）

○第四回神戸文学賞「溶ける闇」（高木敏克神戸市）同女流文学賞「影の棲む」（田口佳子伊丹市）

○第五回神戸文学賞「該当なし」（同女流文学賞「痕跡」久保田匡子大阪市）

○第六回神戸文学賞「ガチャマン」（南洋満作神戸市）同女流文学賞「該当なし」

○第七回神戸文学賞「凶鳥の群」（徳留洋京都市）同女流文学賞「花いぢもんめ」（新光江鳥取市）

○第八回神戸文学賞「昔の眠」（服部洋二神戸市）同女流文学賞「薔薇の音」（菊池佐紀愛媛県）

○第九回神戸女流文学賞「スマーラブラグ」（桑井朋子高石市）「いちじ」（宇山翠北九州市）

○この回の神戸文学賞は該当なしして、神戸女流文学賞を「作が受賞」

○第十回神戸文学賞「おどんち海戦」（象田照夫長崎市）「オレンジ色の闇」（舟木かな子神戸市）

○第十一回神戸文学賞「獣父記」（田能千世子茨木市）（この回より神戸文学賞と同女流文学賞を一本化）

○第十二回神戸文学賞「夢食い魚のブルーグラッドハイ」（釜谷かおる高砂市）

○第十三回神戸文学賞「お夏」（西宮市）

○第十四回神戸文学賞「風車の音はいらない」（上田三洋子長岡京市）

ここに第15回文学賞を公募するあたり、多数の意欲的御投稿をお願いするとともに清新かつ強力な作品の出現を期待する次第です。

△募集要項

一、応募作品は小説とし、応募資格は問いません。ただし応募作品数は一篇に限ります。

一、応募作品は未発表原稿、または締切以前、一年未満に発行の同人誌に掲載したものに限ります。

一、原稿枚数は四百字詰70枚。

一、原稿には住所、本名、年齢、職業、略歴を明記し、四百字程度の作品梗概をつけて下さい。
一、締切りは八月三十一日(当日消印有効)

一、受賞作品発表は本誌一九九一年新年号誌上で、同号より作品を掲載します。
一、原稿の返却、選考経過などに関する問い合わせには応じかねます。
一、受賞作品の著作権は本誌に属します。
一、受賞作品には副賞として賞金三拾万円が贈られます。

一、原稿の送り先、お問い合わせは、神戸市中央区東町一二三の一 大神ビル九階
月刊神戸つ子「神戸文学賞係」まで。
電話〇七八一三三一一二三四六

六甲山 Gourmet Tour

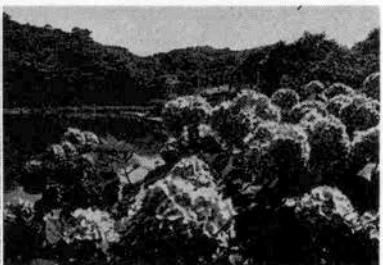
——六甲山を楽しむための
たったひとつの冴えたやりかた



六甲山牧場では牛たちがのんびりとくつろぐ



大人にも子供にも人気のある六甲高山植物園

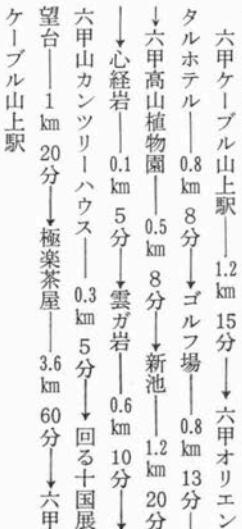


六甲山名物のアジサイは、今からが見どころ

六甲山は、クルマなら市街地から30分という利便性抜群の、神戸が全国に誇るリゾート地。レジャー、グルメ、宿泊と、施設が充実した山頂へは、クルマの他、六甲ケーブルと六甲有馬ロープウェーを使えば、阪急六甲、有馬から20分で行くことができる。遠いようで近い、とても多い難いところなのである。名物のあじさいも、今からがいい季節。山歩きが好きな人には、100を超える登山ルートも用意されていて、舞台は揃っている。タキシードでも、登山服でも楽しめる素敵なりゾート——それがM・R・OKKOなのだ。

それではまず、難易度別の登山ルートを紹介しよう。

☆ご家族連れに



♡割合平坦な道が続き、ハイキングとして楽しめる。

六甲高山植物園や六甲カンツリーハウスは、子供から大人まで絶大な人気がある。デートコースとしても利用できる。

☆デートコースに



難易度★★

♡さほど難しいコースでなく、その上、途中に二人が寄り添わないと歩けない静かなところがある。愛を

語らうにはびつたり。

☆初級者向き

難易度★★★

三宮駅——市バス 5分——布引——1.3 km 30分——布
引時水池——1.4 km 30分——市が原——0.6 km 15分——ト
ウンティクロス入口——0.8 km 30分——分水嶺越分岐点
——1.5 km 40分——八州嶺ダム——0.7 km 15分——黄蓮谷
分岐点——0.6 km 15分——桜谷分岐点——1.2 km 40分——
アゴニー坂登り口——1.4 km 40分——摩耶山頂掬星台——
——ロープウェイ、ケーブル、市バス——三宮駅
○トウエンティクロスでは飯盒炊餐をしているグル
ープの姿がよく見られる。

☆中級者向き

難易度★★★★

白鶴美術館 3 km 40分——五助堰堤——2.9 km 60分——
本庄橋——2 km 40分——一軒茶屋、最高峰——4 km 60
分——有馬
○最高峰から臨む有馬の景観は絶品。有馬へのルート
の中でも、最もボリューマーなコース。下山してから
ゆっくりと温泉に入るのもいい。

☆上級者向き

難易度★★★★★

阪急六甲駅——市バス 10分——六甲ケーブル下駅——
1 km 15分——有料道路との分岐点——0.8 km 20分——
真水谷との分岐路——1.1 km 40分——前が辻——1.5 km 20
分——ダイヤモンドボイント——2 km 50分——地獄谷
堰堤——2.2 km 30分——神鉄大池駅
○所要時間は短いが、山あり谷ありの難関コース。山
歩きの経験の少ない方は、中級者コースまでで止め
ておくのが賢明。

持っている人もあるはず。
そこで今度は月刊神戸っ子厳選の、グルメ&観光スポットをドーナンと紹介してみよう。ガイドブックにも載つていないところもあるので、これは必見！

六甲山カンツリーハウス

電 891-0366

夏でもスキーが楽しめる“プラスノースキー”、バーベキューなどが出来る“ティキヤンプ場”。バターだけでプレイする“ベビーゴルフ”二人で息を合わせてこぐ“ペナルボート”など、大自然の中で心と身体をリフレッシュ出来る。デートにも、ご家族連れにも。

六甲高山植物園

電 891-0366

6月～8月にかけては、キンロバイ、コウホネ、ヒツジグサ、チダケサシ、ハガクレツリフネ、ウメバチソウ、オカトラノオ、ホタルブクロ、キレンゲショウマ、イワタバコなどの花が華を競っている。東入口脇には喫茶店もあり、子供連れには最適。

六甲山フィールド・アスレチック

電 891-0366

自然の空気の中で天然の素材に触れて流す汗が気持ちいい。自然を相手にするから、大人も子供も楽しめる。工夫を凝らした全40コースを突破すると、きっと爽快感でいっぱい。大人には体力づくりに、子供には夏休みのいい思い出に。

六甲山牧場&神戸チーズ館

電 891-0280

全体を見渡せないほどの牧場の中には、羊、乳牛、う

TOPICS ●まぼろしのアジサイ

シーホルト著「日本植物誌」で紹介されたものの以後長い間発見されず、1959年に偶然にも六甲山で発見された。高さ1.5mの落葉低木で、恐らくはヤマアジサイの一種だとされている。枝先に小さな花をつけ、最後に残った飾り花は八重咲きになり、萼片が星型になって重なり合う、非常に愛らしい花。6月13日に花の万博でも紹介された。

ところで、六甲山へ行つても、ただ自然の空気に触れるだけじやつまらない。ひと晩泊つてもいいし、六甲山には一体どんな施設があるのだろうか——そういう疑問

さぎ、山羊、馬が放牧され、じかに動物たちに触れられるコーナーがある。また神戸チーズ館では、大人気の神戸チーズを製造・販売している。

六甲山ジンギスカンパレス

六甲山にちなんで六角形に造った全天候型の建物。約200人が収容でき名物のジンギスカン料理が存分に楽しめる。

神戸ゴルフ俱楽部

英国人グルーム氏が開発した日本最古のゴルフ場。英國風マナーを受け継ぐ名門コース。神戸の街を見下しながらプレイできる。全18ホール、3658ヤード、パー61。

回る十国展望台

軽食・喫茶店で休憩しながら、全体が360度回転するので、ゆっくりと周りの展望が楽しめる。遊び疲れた時の目保養に。

えーてるわいす

山のロッジそのまま使ったような喫茶店。六甲高山植物園の東口付近にある。暖炉がしつらえられた木造りの店内では、ひょっとしたら山男が珈琲を飲んでいるかも知れない。

六甲山郵便局

局員デザイン・製作による花の絵をあしらった絵ハガキがある。シルクスクリーンを使った3色刷りのものが、常時製作している訳ではないので数に限りがある。

ホテル凌雲荘

全館和室で、大阪湾が臨める眺めの素晴らしいと静けさで、新婚旅行客が利用することもある。

六甲山ホテル

北欧風の近代的な本館の他に、昭和4年に完成したという本造の旧館がある。旧館は女性に人気がある。

六甲オリエンタルホテル
アルプスの山荘風ホテル。全室が海側に面していて、大阪湾を眼下に臨む眺めは最高。

グランドホテル六甲スカイヴィラ　☎ 891-0140
広間が多いので、研修や宴会に利用されることが多い。
四川料理がメインで、ジンギスカンなどもある。

観光施設やレストランは分ったけれど、できれば何かイベントのある時に行きたい、あるいは参加してみたいという贅沢な貴方のために、今夏の六甲山で行われるイベントガイドをまとめた。

六甲山カンツリーハウス

7月1日(日)●カンツリーギネス「カン・ツリー競技」今年から新登場のカンツリーギネス。第1弾は1分間に釣竿でどれだけ空カンをつりあげられるかを競う「カ

ン・ツリー」

7月8日(日)●カンツリーギネス「愛LOVE洗濯ばさみ」

カンツリーギネス第2弾。2人1組で、髪の毛に洗濯ばさみをいかに早くつけられるかを競う。

7月15日(日)●カンツリーギネス「長ぐつ遠投大会」カンツリーギネス第3弾。長ぐつ遠投大会。

7月22日(日)●カンツリーギネス「愛LOVEトイレットベーパー」

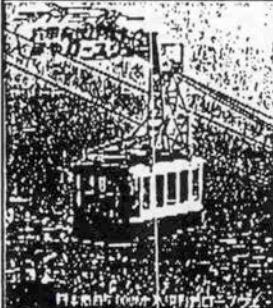
2人1組で1人の身体にトイレットペーパーを巻き付ける競技。早さときれいさがポイント。

7月29日(日)●親と子のゲーム大会
親子2人1組で参加するゲーム。

TOPICS ● 六甲山町101番地

六甲山町にも、中央区の旧居留地にあるような旧番地があった。外国人居留者の住んでいた邸宅を番号で呼んでいたものである。今でもその名残りとして、番地を示す石が残っており、奥摩耶ドライブウェイと表六甲ドライブウェイの間にある三国池のほとりに密生した笹の中に、「101」と刻まれた石鎮が座しているのが見つかることもある。

スカイライナー 六甲有馬ロープウェー



日本最長、延々、
五キロの空中旅情。

TEL.078(891)0031 FAX.078(891)0032

7月29日(日)●宝さがし
羊の耳票を探すゲーム

★右記問い合わせ 六甲有馬ロープウェー

8月4日(土)・5日(日)●ガラクタキャンプ
8月11日(土)・12日(日)●ミュージックキャンプ
8月12日(日)●空・緑・風・感(フォーカコンサート)
8月12日(日)●真夏の雪まつり
8月19日(日)●夏休み図工教室

★右記問い合わせ 六甲山カンツリーハウス 電 891-0366
第19回六甲山・摩耶山写生画コンクール大会
目の前に広がる自然をスケッチ。(中学生以下に限る)
摩耶山会場 7月29日(日)~雨天の場合は8月8日(水)~
六甲山会場 8月5日(日)~雨天の場合は8月8日(水)~
AM 10 ~ PM 3
★右記問い合わせ 六甲有馬ロープウェー 電 891-0031
摩耶山納涼盆踊り大会8月8日(水)PM 6 ~ 8 雨天中止
当日は天王寺の大祭日。深夜0時50分まで摩耶ロープ
ウェーが運行する。
羊と子供100人が参加するレース

8月4日(土)・5日(日)●スイス・アルペン音楽祭
アルプホルン・ヨーデル・民族ダンスなどで、牧歌的
雰囲気を味わう。
★右記問い合わせ 神戸市立六甲山牧場 電 891-0280
あじさいホリデー六甲山グリーム祭 7月22日(日)
六甲山開祖のグルーム氏を讃える式典ほか

8月5日(日)●スイス・アルペン音楽祭
アルプホルン・ヨーデル・民族ダンスなどで、牧歌的
雰囲気を味わう。
★右記問い合わせ 神戸市立六甲山牧場 電 891-0280
あじさいホリデー六甲山グリーム祭 7月22日(日)
六甲山開祖のグルーム氏を讃える式典ほか

HANSHIN Mt. ROKKO もしかすると、空の中かもしれない。

入園料 おとな600円 こども300円
営業時間 9:30~17:00(夏季9:00~18:00)
定休日 木曜日(ただし夏季7/21~8/31)
及び祝日は営業。)

六甲山カンツリーハウス

阪神電車

お問い合わせ-----電 (078) 891-0366

以上、駆け足でご紹介しましたが、この夏は是非、六
甲山で気分をリフレッシュさせて下さい。
★右記問い合わせ 神戸市交通観光委員会 電 861-5288
六甲山納涼夜景見学バス 7月23日(月)~8月31(金)土
・日曜日は除く
夜景とジンギスカン料理が楽しめる
・エコノミーコース 大人5千5百円
・デラックスコース 大人8千円